

共生

奈良県生協連

2023年10月

NO.130

奈良県生活協同組合連合会 第34期臨時総会

奈良県生活協同組合連合会
第34回臨時総会



奈良県生協連理事長交流会

もくじ

第28回奈良県協同組合デーのつどい… 1・2	なら小地域福祉活動サミット…………… 7
第34期臨時総会…………… 3	奈良県社協ヒアリング・明日香村災害ボランティア… 8
奈良県生協連会員生協理事長交流会 … 4	知事との懇談／第34回近畿地区生協・
若者応援プロジェクト奈良2023～奈良教育大 … 5	行政合同会議…………… 9
介護保険制度改定…………… 6	近畿農政局・食料・農業・農村政策審議会… 10

第28回奈良県協同組合デーのつどいが開催されました

8月30日ホテル日航奈良4階飛天において、奈良県協同組合連絡協議会の委員会が開催され、JAグループ、奈良県森林組合連合会、奈良県生活協同組合連合会が県内の協同組合間協同連携について協議、確認しました。その後開催されたつどいは「国際協同組合デー」にちなみ開催されており、今回はコロナ禍で4年ぶりの開催となり、1993年連絡協議会が設立されてから30年目の開催となりました。会場には協同組合関係者99名(生協関係者51名)が集い、協同組合運動の発展を祝い、意義を確かめました。連絡協議会委員長で奈良県農業協同組合中央会中津博行会長の開会あいさつの後、来賓代表として奈良県食と農の振興部農業経済課 南地哲弥課長から祝辞をいただきました。



会場の様子



講師 伊藤治郎氏

今回は日本協同組合連携機構(JCA)常務理事 伊藤治郎氏を講師にお招きして「『協同組合らしさ』について考える ～協同組合のアイデンティティに関するJCA声明～」と題して講演いただきました。

「1937年ICAパリ大会でロジデール原則をもとに協同組合原則が世界共通規範となりました。しかし1970年～80年代世界の政治・経済・社会の変化の中、協同組合の価値は何かを明示する必要がありました。1995年ICA大会で21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す『協同組合のアイデンティティに関するICA声明』が承認されました。2020年には持続可能

な地域社会の実現に向けて労働者協同組合法が設立されました。」と話されました。同種協同組合間連携にとどまらず異種協同組合間の連携の可能性や学習の重要性にも言及され、「ゆるやかに、小さなことから一緒にできることを連携していくことが大切だ」と話されました。協同組合間連携をすすめる中で大変示唆に富んだ内容となり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



「奈良県協同組合連絡協議会30周年のふりかえり」を設立の趣旨や当時の写真などを使って説明する奈良県生協連 奥西武史 専務理事

講演の後、懇親会が開かれました。奈良県生協連 森宏之会長から「吉野の森と水を

守る取り組みもコロナ禍でこの3年間植樹をあまりできていません。豊かな森をつくる運動を進め、SDGsの課題を我々協同組合が自慢できる取り組みとなるようにすすめていきましょう」とあいさつがあり、その後県内農産物を使った料理を楽しみながら事業分野や組織を越えて親睦を深めました。



県内農産物を使った料理

奈良県協同組合デーのつどい経過

回 / 開催日	内容
第1回 1993年7月5日	・講演『協同組合へ期待すること』 武内 哲夫氏
第2回 1994年7月4日	・活動報告・講演『環境と協同組合』 藤原 邦達氏
第3回 1995年7月3日	・活動報告 奈良県森林組合連合会、奈良県農業共済福祉事業団、ならコープ
第4回 1996年7月8日	・活動報告
第5回 1997年7月8日	・イベント『環境クイズ』・講演『環境問題と協同組合の役割』 森住 明弘氏
第6回 1998年7月13日	・イベント ペーパーサート『産直鶏の一日』 ・講演『食糧・農業・農村基本問題を考える～答申に向けて～』 三好 久男氏
第7回 1999年7月19日	・映画『一本の手』・まとめ 協同福祉会あすなら苑 理事長 伊藤 次栄氏
第8回 2000年7月10日	・講演『食と健康』 元気で長生き研究所 昇 幹夫氏
第9回 2001年7月2日	・講演『日本の食と農について考える』 NHK番組制作局社会情報番組部チーフプロデューサー 掛川 治男氏
第10回 2002年7月8日	・講演『食と笑顔と心の持ち方』 神谷料理研究所 所長 神谷 信将氏
第11回 2003年7月14日	・講演『食の安全性—自給・地産地消』 家の光協会専門講師 渡辺 広子氏
第12回 2004年7月12日	・基調報告「奈良の『食』の行動計画」について 奈良県農林部農政課 主幹 永井 茂治氏
第13回 2005年7月11日	・基調報告「食育について」 近畿農政局 奈良県農政事務所 消費生活課 消費経済係長 井出 久也氏
第14回 2006年7月10日	・講演『心の健康』 音楽療法士 高本 恭子氏
第15回 2007年7月30日	・講演『食と健康について』 幕内 秀夫氏
第16回 2008年7月16日	・講演『地球温暖化防止に向けて』 平岡 俊一氏 ・各種活動事例発表 JAならけん女性部、ならコープ、 奈良市森林組合女性部
第17回 2009年7月17日	・講演『食は運命を左右する』 阪口 由美子氏 ・各種活動事例発表 JAならけん女性部、コープ自然派奈良、 奈良市森林組合女性部
第18回 2010年7月16日	・講演『その日の疲れはその日のうちに解消!』 小久保 晴代氏 ・特定非営利活動法人 奈良の食文化研究会(鹿の被害について)
第19回 2011年6月16日	・講演『地域包括医療を目指して—岩手県沢内村から山添村へ—』 吉本 清信氏 ・映画上映『いのちの山河～日本の青空Ⅱ』
第20回 2012年7月20日	国際協同組合年 ・活動報告「吉野共生プロジェクト活動」ならコープ理事長 森 宏之氏 ・映画上映「わが人生ここにあり」
第21回 2013年7月1日	・講演「農協と私の歩みわが故郷に感謝」 奈良県農業協同組合中央会 会長 永田 正利氏
第22回 2014年7月4日	・講演「協同組合運動のこれからの10年」食とエネルギー産直の時代 九州大学 名誉教授 村田 武氏
第23回 2015年7月13日	・講演「協同組合は地域社会を守る守護神である」 ～人づくり・組織づくり・地域づくり～ 文芸アナリスト 大金 義明氏
第24回 2016年7月15日	・講演「協同組合の現代的意義」 滋賀県立大学教授 増田 佳昭氏
第25回 2017年8月17日	・講演「地域社会の未来を創る協同組合間の協同」 龍谷大学農学部教授 石田 正昭氏
第26回 2018年7月20日	・講演「協同組合の可能性をひろげ地域を元気に」 (一社)日本協同組合連携機構 常務理事 青竹 豊氏
第27回 2019年8月6日	・講演「地域における協同組合の役割と可能性」 奈良女子大学 生活環境学部生活文化学科講師 青木 美紗氏
2020年～2022年	(コロナ感染を鑑み、開催中止)
第28回 2023年8月30日	・講演『「協同組合らしさ」について考える～協同組合のアイデンティティに 関するICA声明～』(一社)日本協同組合連携機構 常務理事 伊藤 治郎氏 ・報告 奈良県協同組合連絡協議会30年ふりかえり

※平成5年(1993年)奈良県協同組合連絡協議会設立

設立総会

設立趣意 農協・森林組合・生協の3つの生協組合が、平和とよりよい社会をめざす協同組合運動の一層の前進と協同組合間の協同、強調を目的に設立するものです。



1993年1月27日奈良市パークホテルにおいて

第1回奈良県協同組合デーのつどい

協同組合へ期待すること
武内 哲夫京都工芸繊維大学名誉教授(当時)



協同組合間協同「女性フェスタ」

2006年10月16日 連絡協議会各団体の女性役員を中心に、連携強化と活性化を目的に交流(コケ玉づくり)



第20回国際協同組合デーのつどい

2012年7月20日



奈良県生活協同組合連合会 第34期臨時総会開催

9月21日奈良ロイヤルホテル ロイヤルホールで第34期臨時総会を開催しました。奈良県生協連理事に就任いただいていた奈良県労働者共済生活協同組合の奥野裕和専務理事が退任され、奈良県生協連の理事が欠員となりました。それに伴い新たに理事を選任するため臨時総会が開催されました。奥野さんには2021年1月から副会長として県連活動の推進に大きく貢献いただきました。

当日は、代議員27名に対して、会場出席3名、書面議決24名での開催となり、新たに奈良県労働者共済生活協同組合 末吉英男専務理事が賛成多数で選任されました。その後開催された理事会で副会長に選定されました。



会場の様子

議案

第1号議案 役員補充選任の件



奥野裕和さん

退任のご挨拶

このたび、所属組織の人事異動により、奈良県生協連の理事を退任させていただくこととなりました。期中での退任となりますことをご容赦いただきたく存じます。

私は、第32期から第34期まで、理事ならびに副会長を務めさせていただきました。在任中は、森会長はじめ理事・監事の皆さま、各会員生協や奈良県生協連の事務局の皆さまには、多大なるご支援、ご協力をいただき、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に一定の制限をせざるを得ない時期の2年という短い期間ではありましたが、奈良県生協連の一員として諸活動にかかわらせていただき、また各会員生協の組合員・地域社会へのお役立ちや関係性の深さなど、その活動の一端を知ることができましたことは、労働者共済協で育った私にとって、新たな気づきを得ることも多く、協同組合間連携の大切さを改めて実感する日々でありました。

現在、私は勤務地、仕事内容、初めての単身赴任と環境が変わり、戸惑い多い日々を過ごしておりますが、奈良県生協連の諸活動を通じて気づかせていただいたこと、「協同精神が息づく安心安全な暮らし・地域づくり」を胸に、新たな環境下で努力してまいります所存です。

結びに奈良県生協連ならびに会員生協のますますのご発展と皆さまのご健勝をご祈念申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

就任のご挨拶

この度理事に就任いたしました、奈良県労働者共済生活協同組合（以下、奈良労済）の末吉英男と申します。奈良県生活協同組合連合会がかかげる、「協同精神が息づく安心安全な暮らし・地域づくり」の実現に向けて、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

奈良労済は、「お互いの生活を相互扶助の力で一層擁護する」ことを設立趣意書に掲げ、1961年に設立され、共済事業を開始いたしました。現在では単協法人である「奈良労済」としての活動、もうひとつは全国事業統合を行った、「こくみん共済 coop」の1拠点としての「奈良推進本部」という2つの顔を持っております。こちらでは、「住まいる共済」、「マイカー共済」、「こくみん共済」など、全国同一の共済事業を行っております。

この60数年の共済事業の歴史の中で、阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめとする大規模災害や、近年毎年のように日本を直撃する台風や豪雪、また、3年以上にもおよぶコロナ禍など、人々の生活を脅かす災害・被害などを経験するなかで、「たすけあい」の輪を拡大させてきました。

組合員が安心して豊かに暮らせる地域共生社会の実現に寄与できる生活協同組合として、そして社会になくてもならない存在感ある共済団体としてさらに成長していけるように、皆さまと力を合わせていきたいと思っております。

会員生協、関係諸団体の皆さまの一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



末吉英男さん

奈良県生協連会員生協理事長交流会

9月21日奈良ロイヤルホテルにて理事長交流会を32名の参加で開催しました。理事長交流会は大学生協4、購買生協3、医療福祉生協1、労働者共済生協1の計9つの会員生協理事と理事長が毎年1回親交を深めるため開催しています。

最初に森宏之生協連会長から「県下の生協活動がより一層発展するように交流を深めていただきたい」と挨拶の後、瀧川潔名誉会長から「今、平和の危機が世界の中で非常に大きな問題になっています。いかに平和というのが大事なものの、みんなで考え行動に移さないといけない状況だと思います。1951年の日本生協連の創立宣言「平和とよりよい生活のために」を大切に今後もみなさんと一緒にいろいろな活動を進めてまいりたいと思います」と挨拶のあと乾杯のご発声いただきました。

今回は学生委員の実行委員が中心となり、毎年開催されている「Peace Now! 奈良」の取り組みの報告を今年度の実行委員会代表の奈良女子大学・余田朝香さんと中谷天音さん、森田葵さんにお越しいただき6月11日に開催された活動の経緯や、繋がり、平和への思いなどをお話いただきました。

その後会員生協の近況を理事長から報告いただきました。



交流会の様子



実行委員長 余田朝香さん

いつも笑顔が絶えない場所ではないかと思っています。楽しく平和を広げていく「Peace Now! 奈良」の活動がこれからも続いてほしいと思います。

「『つくり育てる平和』という言葉は平和活動に非常に大事だと思います。これからも平和に関心をもって行かれることを応援したい。」と参加者から感想をいただきました。

「Peace Now! 奈良」は奈良教育大・奈良県立大・奈良女子大3大学で「平和について学び・考え・その思いを他の人に伝えたい」意思を持った学生が集まって1年かけて運営しています。毎年同じような学びではなく、何度参加しても毎回新しい発見があります。参加者から「平和は誰かによってもたらされるものではなく、自分で作り出していくものなのかもしれない」との感想から、身近なところから平和を感じていくことは大事だと思いました。また、他大学の生協学生委員さんと平和活動だけでなくもっとたくさん輪を広げるきっかけになればとあらためて思いました。最後に、平和が生まれる場所は



実行委員(左から)
中谷天音さん・余田朝香さん・森田葵さん

若者応援プロジェクト奈良2023

奈良教育大学フードパントリー

2021年度から始めた若者応援プロジェクト奈良。2022年度も継続してきましたが、2023年度初めて、7月28日午後、奈良教育大学の山田ホールで1年ぶりにボランティア有志10人で食品や雑貨品や文房具などの無料配布を実施しました。



並ぶ学生さんたち

一人当たりの配布物

袋めん5袋入り…… 1パック
レトルトカレー…… 2袋
ツナ缶… 2缶・バナナ… 2本



ならコープなどからもバナナなどの農産品が多数運び込まれました。学生さんは期待を膨らませて、1時間前からホール前に並び始め、長蛇の列になり、時刻を少し早めて開始しました。217名の学生さんが取りに来られました。

若者応援プロジェクト奈良の在庫品と寄付金であらたに購入して次のような食品と雑貨を用意しました。

調味料、菓子、餅、米、ジュース、食器、化粧品、雑貨品、文房具、バナナ、ベビーリーフ、小松菜、トマト、ブルーベリー、ナス等



学生アンケートから

- ・2022年6月のコロナ禍で実施した際よりも生活が厳しいとの回答率が増加 (60.0%→64.1%)
- ・苦しくなった理由が「日常生活費が増えた」(33.3%→57.8%)の比率の増加。



■1年ぶりでしたが、学生さんたちは生活費が上がっていることに苦労していました。今後も残りの寄付金の活用やあらたな工夫で何とか継続していきたいと思います。

学生の感想

- ・食料品や様々な品物の値段が上がっている中で、今回の支援が非常に助かりました。思っていた以上に色々な種類のものを頂くことができて良かったです。
- ・今後も定期的に開催して下さると助かります。
- ・最高です!コロナ禍で家族収入が減り、とても困窮していたので本当に助かります!自分だけではなく、コロナ禍で困っている学生のためにこれからもよろしく願います!
- ・私は実家住みですが、9月から教育実習のため1人暮らしをするためお米やインスタント系の物を貰って本当に助かりました。5人暮らしなので、ジャガイモなどもとても嬉しかったです。

2024年度介護保険制度改定に向け 天理市長・奈良市長・ 大和郡山市市長・明日香村長への訪問



天理市並河市長との懇談



奈良市 仲川市長との懇談



大和郡山市上田市長との懇談



明日香村森川村長との懇談

社会福祉法人協同福祉会と奈良県生協連が連携し、8月28日天理市並河市長、8月31日奈良市仲川市長、9月5日大和郡山市上田市長を、奈良県生協連森会長、奥西専務理事、ならコープ吉田理事長、協同福祉会大國理事長、東浦専務理事、全国コープ福祉事業連携機構村城理事長はじめ事務局で訪問しました。また、9月19日明日香村森川村長を奈良県生協連森会長と奥西専務理事が訪問しました。それぞれの地域(自治体)の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されることが必要なことなど懇談しました。

「介護保険制度改定」に向けて要望すること

介護保険制度は、高齢者介護の現状を踏まえ社会のニーズに合わせた制度とするべく3年ごとに改正されています。2024年度介護保険制度改定に向け直面する課題は、85歳以上高齢者の急増、フレイル・認知症・要介護高齢者が増加することです。その一方で生産年齢人口が減少し介護人材不足が深刻になり、行き場のない高齢者が増え、本人はもとより家族が困り地域社会の大きな問題になっていくと予想されています。

昨年10月には75歳以上の医療費2割負担が導入されたことで診療受診を控えることも憂慮されています。さらに、介護利用者原則2割負担は利用回数が減り重症化リスクが高まるため慎重に検討すべきです。

そのような状況のなか要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築が不可欠です。また、介護保険制度と医療保険制度の両分野での支援も重要になります。

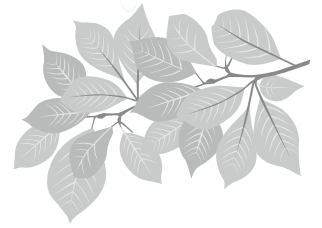
そのためには今後、下記の施策が重要と考えています。

- 1) 利用者一人一人の状態に合わせた柔軟なサービスを一体的に提供可能な地域密着型サービスの整備第9期介護保険事業計画(2024年～2026年)で拡充すること。
- 2) 介護職の魅力発信と介護人材確保・定着の抜本的施策を講じること、介護職員の収入等を含めた処遇改善、やりがい・魅力発信、外国人労働者の受け入れ施策、ICT・DX化を推し進めること。
- 3) 介護保険制度にそった適切な給付と負担とすること、利用者負担の原則2割化は利用回数が減り重症化リスクが高まるため慎重に検討すべきであり、軽度者(要介護1・2)の総合事業・地域支援事業への移行は行うべきではない。
- 4) 自立支援、日常生活支援施策の強化をはかり、誰もがその人らしく住み慣れた地域でくらす仕組みづくりを求める。

(「生協(あすなら)10の基本ケア」は心身機能悪化防止に効果があると実証されている)

“人とふれあう、地域で支えあう”

第12回なら小地域福祉活動 サミットが開催されました



9月2日に、「なら小地域福祉活動サミット」（主催：奈良県社会福祉協議会）が、アフターコロナを考える今年だからこそ、改めて“地域の暮らし”や“地域のつながり”のあり方について、これまでの活動を思い返ししながら未来志向で考える場として開催されました。地域福祉活動に取り組む方、市民ら、約300名が参加されました。

基調講演は、「いま、改めて『地域の暮らし』を見つめなおす～琴平の地域福祉実践から」と題して、琴平町社会福祉協議会会長の越智和子氏が講演されました。

琴平町社会福祉協議会で、「誰もが安心して暮らせるまちづくり～一人ひとりに寄り添って～」をテーマに、「在宅サービスの整備」「地域福祉推進体制づくり」「住民主体のまちづくり」を、地域の皆さんと一緒に少しづつ広めてきた取り組みが報告されました。

「地域で『最期』まで支える社会福祉協議会」「農商工連携による福祉と教育がかかわり展開された『ガリック娘』の取り組み」「緑のお弁当」など、具体的実践例もあげながらお話が進められていきました。

最後に、住民が“受け身”ではなく、“主体”となって、情報を共有し、つながりながら地域づくりを進めることが大切だと強調されました。

昼食休憩時間には「こども食堂PR動画」が上映されました。

午後からは下記の4つのテーマの分科会で、地域福祉活動の実践についての活動報告と意見交換が行われました。

第1分科会「暮らしの彩を豊かにする。地域福祉活動が持つ魅力」

第2分科会「集まれる場所はどこにある。地域に開かれた拠点を再発見」

第3分科会「住民も関係者も専門職も交わる実践～地域の“気になる”からはじまる、地域の福祉力を高める取り組み～」

第4分科会「知ってますか？フィンランド発「モルック」のことを～地域交流の輪が広がる、地域活性化につながる～」



講師の越智和子さん



当日会場受付では、子ども食堂運営者などの協力によりフードドライブが行われていました。

参加者の感想

高齢化が加速度的にすすむなか、孤立と孤独が進行し、ゴミ出しや墓参りなど今までに隠れていた課題が露呈してきたなかで地域共生社会づくりが本当に重要だと思う。声を出すのが苦手な方など個性があること、一人一人に寄り添い一人一人の権利が守られ、身近な隣近所のたすけあいが大切なことはその通りだと思います。「拠点」「人」「元気・やる気」がキーだと思いました。住民一人一人が主体的に考え、生活のしづらさに対して、支援の仕組みづくり、今までのやり方を変え、プラットフォームの仕組みづくりに少しでも貢献できればと思いました。

奈良県社協役割充実に向けた検討事業/ 奈良県社協第8次アクションプラン

～地域福祉実践ワーキング(ヒアリング)実施企画～

奈良県社会福祉協議会は8月28日第8次アクションプラン策定のため奈良県生協連に來られました。
地域共生社会に向けた協働の在り方等について、奈良県生協連と会員生協のならこーぷとの意見交換・協議を行いました。
事前にいただいたヒアリング表をもとに、それぞれの立場で意見がだされ地域の課題を発見・共有する場となりました。

だされた意見

1. 地域社会の様相やくらしの課題をどのようにとらえているか

- ・コロナ後の生活再建できづらい世帯へ寄り添い手を差し伸べることの難しさ
- ・大学生の生活がコロナ後もよくなっていない

2. 地域共生社会の実現に向けての取り組みについて

地域の課題が多様化し複雑化する中、地域の多様な人や組織とのつながりを大切にし、ともに考えていくことが大切

3. 地域福祉や社協活動との接点

奈良防災プラットフォーム連絡会発足・災害ボランティア福知山支援参加・生活支援サービス・活動連絡会発足・子ども食堂ネットワーク発足など

4. 県社協に期待することや、協働していきたいこと

地域共生ラウンドテーブルミーティングを通じて共通の関心ごとへの学びの場を広げ、地域が抱えている課題に対して協力し、解決を目指す包括的な連携ができればと考える



県内の台風2号被災者支援ボランティアに参加しました

奈良防災プラットフォーム連絡会から連絡があり、2023年台風2号による被害を受けられた被災者を支援するため、7月14日(金)明日香村稲渕地区でボランティアに奈良県生協連から2名が参加してきました。支援に入ったお宅は6月2日(金)に谷川からの土砂を含む浸水により家屋に甚大な被害を受けられていました。被災後1か月程は家族・親族で泥出しをされておられたのですが1/3も進まず7月に入って明日香村社協から県社協に要請が入り、定期的にボランティア



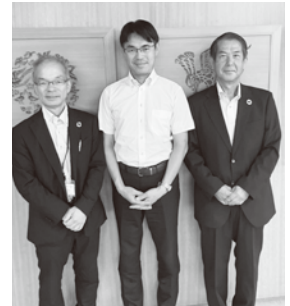
が入ることによってようやくご家族が帰って来られる目途がついたそうです。当日は様々な団体からのべ18名程のボランティアの方が参加され、分担して床板や壁、室外機などの泥落としを行いました。奈良県は地形的に風水害に強いイメージがありあまり危機意識を持っていませんでした。

今回このような現場に参加して風水害の恐ろしさ、そしてたすけあいの大切さを痛感しました。今後は行政や奈良防災プラットフォーム連絡会などしっかりと連携して災害に備えていく意識を高めていく必要があると強く感じました。

奈良県山下真知事との懇談



7月11日奈良県庁において山下真知事を奈良県生協連森会長・奥西専務理事とならコープ吉田理事長・福西専務理事が訪問し就任挨拶と懇談をおこないました。奈良県生協連からは、若者応援プロジェクト奈良、子ども食堂ネットワークやフードバンク活動、介護保険改定に伴う課題などについて報告し、ならコープから



奈良県及び市町村との包括連携協定、買い物支援・見守り等の協定の状況、サイバーインシデントについて報告しました。過疎における高齢化支援として、かわかみらいふ(川上村)の取り組み事例や下市ステーション(下市町)における南都銀行との連携を含む地域共生の取り組み事例などについて報告し意見交換しました。

第34回近畿地区生協・行政合同会議が開催されました

8月23日からすま京都ホテルで、奈良・和歌山・兵庫・京都・大阪・滋賀・福井の近畿地区2府5県の府県生協連合会で構成する近畿地区生協府県連協議会による第34回近畿地区生協・行政合同会議が開催されました。府県連協議会は各府県持ち回りで開催しており、今回は京都府生活協同組合連合会が担当になりました。

テーマを「つながる力で安心して暮らし続けられる地域社会づくりをめざして」とし、近畿地区各府県の行政担当と、府県生協連の役職員が意見交流をおこないながら、健全な生協活動の推進と相互理解を一層深める機会としました。奈良県からは消費・生活安全課 澤田主任主事にご参加いただき、奈良県生協連から奥西専務理事が参加しました。

主催者を代表し、近畿地区生協府県連協議会代表 兵庫県生活協同組合連合会 岩山利久会長理事から、「国際協同組合同盟(JCA)は、2023年の国際協同組合デーのスローガンを『協同組合は持続可能な社会づくりに貢献します』としました。生協は持続可能な社会づくりにしっかり役割を發揮しなければなりません。本日の特別報告を受け、協同組合として社会的役割をどう發揮していくのか、生協の立ち位置を再確認し次の一步へとつなげていきましょう」とメッセージがありました。また、開催地を代表し京都府文化生活 益田結花部長から挨拶をいただきました。

厚生労働省社会・援護局 地域福祉課 消費生活協同組合業務室・谷内一夫室長補佐からご挨拶の後、日本生協連渉外広報本部・松本圭司本部長より「持続可能な社会の実現を目指した全国の生協の社会的取り組み」として協同組合間連携事例の報告がありました。

特別報告として、摂南大学農学部 北川太一教授から「持続可能な地域社会づくりと協同組合の役割～協同の力で食、農、地域をつなぐ～」として、「協同組合と行政・自治体との連携強化にむけ、『対話・学びの場づくり』『事業と活動を通じてくらしと地域をよくする』『自助・互助(近助)・共助・公助を紡ぐ協同のネットワークづくり』が重要性である」と強調されました。各団体からは、①京都府からの報告「若者が相談しやすい環境づくり～大学生協との協働～」②コープしがからの報告「滋賀県の中で地域共生社会づくりの取り組みについて」③兵庫県生協連からの報告「生活協同組合コープこうべの地域つながるミーティング」④特定非営利活動法人消費者支援機構関西からの活動報告があり、それぞれ教訓や学びの多い報告でした。

最後に、京都府生活協同組合連合会 西島秀向会長理事から閉会の挨拶で終了し、その後懇親しました。



近畿農政局

食料・農業・農村政策審議会 基本法検証部会 地方意見交換会

8月7日近畿農政局(京都府京都市)において、「食料・農業・農村政策審議会 基本法検証部会 地方意見交換会」(近畿ブロック)が開催されました。事務局より中間の取りまとめ報告の後、時代の変化に対応するため検証・見直しに向けた議論が行われました。

近畿ブロックでは、基本法検証部会委員から東京大学副学長 大橋委員(座長)、全国農業協同組合中央会 中家委員、福知山市立大学教授 清原委員が出席され、意見陳述を奈良県から地方自治体代表として宇陀市金剛市長、消費者代表として奈良県生協連奥西専務理事、他府県から農業従事者代表3人、農業団体代表2人、食品販売事業者代表1人が意見陳述しました。



参加者



生産者代表から

- ・ 個別農家が生きていけるような助成制度を望みます。
- ・ 農道や生活道路及びため池や用水路の整備や獣害対策も急務、また女性が職業の一つとして農業を選ぶ時代が来ておりさまざまな支援を柔軟にしてほしいと思います。
- ・ 新規で農業を始めるような経営体には補助金が少ない、新規就農者が参画しやすいような間口を広げた支援をしてもらいたいと思います。
- ・ 農産物の輸出に向けたルールづくりや果樹のスマート農業整備や観光資源として農村風景を維持する視点をいれた環境づくりをすすめてほしいです。
- ・ 給食食材の地産地消をすすめてほしいです。



自治体代表から

高収益作物の生産拡大、品質・生産性の向上に取り組んでいます。オーガニックビレッジ推進事業をわかりやすく発信しています。ジビエ利活用プロジェクト事業の取り組みを支援し、持続可能な村づくりを進めていきたいと思っています。



消費者代表から

消費者はおいしい・安心・安全・安価な商品を求めています。生産者と消費者との交流をさらに強め、相互理解のもとで持続可能な農業の推進を目指し、そのことが食の安心・安全の実現へとつながっていくと考えています。消費者の願いはよりおいしい農産物を残留農薬などの不安がなく、また価格が乱高下することなく品質に応じた適正価格を把握し、できるだけ低価格の商品が購入できることである。産消交流を通じて生産者と消費者との相互理解を深めることと、食育活動によって、たとえば少々形が悪くてもおいしく食べる工夫や情報交流を推し進めることで食品ロスの削減にもつながると思う。生産者側・消費者側・行政が連携し、啓発活動の継続が必要だと考えます。減反政策はやめて、財政からの直接支払で農家所得を確保できれば、担い手確保が進むのではないかと思います。また、水田には多面的機能があり、防災的機能や生物多様性を維持するという重要な役割を持っています。こういったことも含めて、世界の食糧事情に対応した政策を進めていければと考えている。高齢者の生きがい農業の視点も大切である。今後も消費者の意見を反映した政策策定をお願いしたいと思っています。

県連日誌

7月

- 5日(水) 国際協同組合デー記念中央集会(オンライン)
- 11日(火) 奈良県山下真知事訪問
- 14日(金) 明日香村ボランティア活動
- 18日(火) 関消懇・関西電力と関西電力送配電の説明会
なら消費者ねっと理事会
- 20日(木) 第2回奈良県生協連理事会
- 21日(金) 第1回近畿地区生協府県連協議会(福井)
- 25日(火) 関消懇・関西電力決算説明会

- 26日(水) ならコープ組合員理事研修に参加
- 27日(木) 日本生協連関西地連運営委員会・県連活動推進協議会
- 28日(金) 奈良教育大学フードパントリー
- 31日(月) 奈良県労働者共済生活協同組合通常総代会

8月

- 23日(水) 第34回近畿地区生協・行政合同会議(京都)
- 28日(月) 天理市並河市長訪問
- 29日(火) なら消費者ねっと理事会
- 30日(水) 奈良県消費者基本計画策定委員会
第28回奈良県協同組合デーのつどい
- 31日(木) 奈良市仲川市長訪問

9月

- 2日(土) なら小地域福祉活動サミット
- 5日(火) 大和郡山市上市市長訪問
- 7日(木) ピースアクションをすすめる会
- 14日(木) 日本原水爆被害者団体協議会訪問
- 19日(火) 明日香村森川村長訪問
奈良県防災プラットフォーム連絡会
- 20日(水) 全国県連活動交流会(オンライン)
- 21日(木) 第34期臨時総会
第2回奈良県生協連理事会
2023年度会員生協理事長交流会
- 26日(火) なら消費者ねっと理事会
- 28日(木) 第2回日生協関西地連運営委員会

予告 国連原爆展 in Nara

2022年8月のNPT再検討会議に合わせてニューヨークの国連本部で開催した「国連原爆展2020ヒロシマ・ナガサキから75年：ヒバクシャ～核兵器廃絶に取り組む勇気ある人々」を奈良で開催します。

日時：10月20日(金) 9:30～21:00
10月21日(土) 9:30～17:00

会場：奈良県橿原文化会館展示室

参加費：無料

主催：ピースアクションをすすめる会、奈良県生活協同組合連合会、ならコープ平和の会

後援：奈良県、橿原市、奈良県教育委員会、奈良YMCA



編集後記

観測史上最も暑い夏といわれ、国連のグテレ
ス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地
球沸騰化の時代が到来した」と警告。家庭菜園
では、降水量が少なく毎日の水やり、病気と害
虫それに害獣との闘い。農家の苦労を実感して
います。(武)

お盆休みに来た孫のひなちゃんにフラフラ
をプレゼント。帰る頃には、だいぶうまくなっ
てきた。大人が挑戦してもみな惨敗。引き続き
練習してどんどん回せるようになっていく。こ
どもって日々成長している。(順)

庭の夏野菜もそろそろ収穫を終え、秋冬野菜
の植え付け準備をすすめる今日この頃ですが毎
年この時期に痛感するのが自身の計画性の無さ
です。野菜づくりのみならず、仕事も人生も計
画性って大事ですよ。(豊)

今年初の「虫の音」を聞いた「秋だよ」と
言っている気がした？。こんな驚異的な暑さ
が続く中で。昔は秋の訪れの知らせと思ってい
たが？(和)

うれしいことや悲しいことが入り混じって、
目まぐるしく時間が過ぎていった1年もあと
2か月で終わろうとしています。楽しいことを
いっぱい考えて、楽しい1年だったと思えたら
いいな。(佳)